

摂津 尼崎

近松が晩年訪れたまら

(兵庫県尼崎市)

尼崎と近松のかかわりは、正徳四年（一七
一四）近松が六十二歳（数え年で六十二歳）
から享保九年（一七二四）、七十一歳（数え
年で七十二歳）で亡くなるまでの十年間余で
す。近松は晩年、たびたび尼崎を訪れました。
久々知というところに広済寺があります。
ここは近松の壇那寺です。当時廃寺同然だっ
た広済寺を再興した住職の日昌上人と近松
は、大坂に住んでいた頃から親交が深かった
ようです。近松は広済寺の再建にも貢献し、



近松公園・近松記念館



兵庫県・尼崎市街

母親が亡くなったときも同寺で法要を営みました。本堂の裏には「近松部屋」と呼ばれる近松の仕事部屋があり、ここで執筆活動をしていたと伝えられています。近松の墓もこの寺に建てられました。境内の奥まったところに立てられ、墓碑の表には近松の法名と、妻の法名が並んで刻まれています。この墓は昭和四十一年（一九六六）に国指定史跡に指定されました。

毎年十一月二十二日の近松の命日前後の日曜日には、近松祭が行われています。文楽人形による墓前祭、近松音頭や地元小学校浄瑠璃クラブなどによる芸能が上演されます。

また、広濟寺には「過去帳」をはじめ、近松が若いころに奉公していた公卿くぎょうから拝領した品と考えられる「法華二十八品和歌」や「後西院勅筆色紙」など近松に関する貴重な資料も数多く残され、「近松記念館」に展示されています。記念館の近くには日本庭園を配した「近松公園」があります。広濟寺、近松記念館、近松



広濟寺



近松祭の様子
 (人間国宝・吉田文雀氏による文楽人形の墓前祭)

公園を中心とした「近松の里」の周辺は、歴史と文化にふれあう場所として親しまれています。

このほかにも、近松公園に「近松門左衛門の銅像」が、JR尼崎駅前には『めいど冥途の飛脚ひきやく』の主人公梅川うめがわの像が、J

R塚口駅に近松モニュメントが、阪急塚口駅横には近松顕彰碑と硯すずりをかたちどったモニュメントがあり、まさに「近松のまち あまがさき」を演出しています。

尼崎市が文化振興の核として「近松」を取り入れたのは、市制七〇周年を迎えた昭和六十一年（一九八六）からです。工業都市から



近松の墓（広濟寺）

文化都市への変革をめざし、「近松」を取り入れた諸事業を展開し、「近松ナウ業事」を進めてきました。今日まで、近松座歌舞伎や文楽公演、近松創造劇場の上演など大規模な事業を展開しています。このほか、市民の間でも、近松応援団、近松かたりべ会、近松音頭保存会が結成され、それぞれ活発な取り組みが行われています。お酒やお菓子、海苔^{のり}、Tシャツなど近松グッズも事業者の協力により多数製品化されています。



梅川の像 (JR尼崎駅)



近松断章 (阪急塚口駅)